

東海大学短期大学部

評価短期大学の概要

設置者 学校法人 東海大学
理事長 松前 達郎
学 長 松任 茂樹
A L O 崔 一煥
開設年月日 昭和 27 年 4 月 1 日
所在地 東京都港区高輪 2 - 3 - 23

設置学科および入学定員

学科	専攻	入学定員
情報・ネットワーク		300 昼間主コース
情報・ネットワーク		150 夜間主コース
人間環境		80
食物栄養		100
児童教育		100
経営情報		80
	合 計	810

専攻科および入学定員

なし

機関別評価結果

1. 機関別評価結果

東海大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 18 年 3 月 23 日付で適格と認める。

2. 機関別評価結果の事由

東海大学短期大学部の設置母体である学校法人東海大学は複数の大学と短期大学の他、高等学校、中学校、小学校、幼稚園等を有する学校法人である。当該短期大学は、昭和 27 年に、短期大学部商科第二部が開設されたのが原点である。現在では、2 つのキャンパスを有し、静岡キャンパスには、人間環境、食物栄養、児童教育、経営情報の各学科、高輪キャンパスには情報・ネットワーク学科を設置している。

平成 17 年 1 月 20 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

当該短期大学の建学の精神は、創立者松前重義博士の「若き日に汝の思想を培え / 若き日に汝の体躯を養え / 若き日に汝の知能を磨け / 若き日に汝の希望の星につなげ」を受け継いでおり、「2 ヶ年間で完成教育を目指し、常に時代の進展や技術革新に注目し、実用性を重視した技術教育を行い、先端的専門能力を身につけた新しい次代の日本を背負い得る活力ある若人の養成を行う」として、各学科の教育目的・目標を定めている。

すべての学科とも各教育目的・教育目標に基づき、教育課程が概ね体系的に編成されている。教養教育、専門教育ともに短期大学として十分な内容を備えている。免許・資格等の取得への配慮がなされ、授業について学生が意欲を持って履修できる条件を備えていると評価できる。また、高輪・静岡の両校舎とも、授業改善にむけての「授業アンケート」等を実施し、教育内容、教育方法の改善への努力が見られる。

両校舎で、受験生一般、入学者等に対する情報提供のための印刷物が発行されている。新入生オリエンテーションや学期ごとのガイダンスが適切に行われ、また学生便覧や講義概要（シラバス）も発行され、その内容も工夫されている。学生のキャンパス内外での生活支援体制、進路支援のための体制も整っており、実績も概ねあがっている。

両校舎とも、教員間にバラツキはあるものの、教員の研究については概ね成果を上げて
いる。また研究費等に係る規程整備、論文集等の発行、研究に係る機器・図書等の整備、
教員研究室等の整備、研究時間の確保等、研究活動の活性化のための条件整備は概ね充た
されているものと評価できる。

両校舎とも公開講座を熱心で開催し、静岡校舎では、恒例となった「建学の地・三保の
松原美化運動」を始めとして、短期大学・学生のクラブ等が主催となって社会的活動に取
り組んでいる。日本人学生の海外派遣、海外提携校への派遣幹旋、望星丸による海外研修
航海、ハワイ東海インターナショナルカレッジにおける英語研修を実施している。

学校法人は、総長（理事長）を中心とし、常務理事会、法人企画調整機構、経営調査室
等の支援により、理事会、監事、評議員会による管理運営体制は確立している。学園改革
本部は、総長自らが本部長となり、特に平成 17 年度より財政改革の推進、教育体制の改革
に取り組んでいる。また教授会を中心とした運営体制、事務組織体制、人事管理体制も、2
キャンパスに分かれてはいるが、概ね適切に運営され、諸規程等も整備されている。

学校法人は、予算編成基本方針を予め編成前に通知し、また予算事務局の設置や予算単
位（経理単位）を設ける等、規模に応じた工夫を行い適切な予算編成を行っている。両校
舎は別々の予算単位として分かれており、各々決定した予算を適切、かつ円滑に執行して
いる。また中・長期の財務計画の策定、計算書類等の作成、監事の関与及び私立学校法の
改正に伴う財務情報の公開についても概ね適切である。

短期大学に必要な施設設備の整備状況も、高輪校舎において「施設設備委員会」を設け
る等、適切に管理されている。また固定資産及び物品管理規程・同施行細則、経理規程・
同施行細則等、諸規程も整備され、加えて危機管理対策や省資源対策についても配慮がな
されている。

自己点検・評価の実施体制として、平成 4 年度より評価委員会を発足させ、両校舎それ
ぞれに大学評価小委員会を設置、教員による授業評価、教員相互の授業評価、研究授業評
価、教員による授業参観等、教育活動を中心として活発な自己点検・評価活動に取り組ん
でいる。高輪校舎では、平成 12～13 年度に福岡工業短期大学との間で相互評価を実施して
いる。

3 . 優れている点及び向上・充実のための課題

(1) 優れていると判断される事項

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- ・ 建学の精神を具現する授業科目「現代文明論」の開設と、受験生むけ冊子「CORE（建
学の精神とその基調）」を発行している。

評価領域 教育の内容

- ・ 教養教育を、「人を敬い、謙虚に生きる知性、そして自信に満ちた判断と行動を実現する教養と思想の力を養う」と明確に定義し、高輪校舎では現代文明論、総合教育、外国語、体育科目、加えて専門の基礎の意味を持つ情報リテラシー、自己表現、問題解決科目等、静岡校舎では現代文明論、総合教育、外国語、体育及び自由履修科目等、多くの科目を開設している。
- ・ 情報・ネットワーク学科（高輪校舎）の科目自由選択制は、学生の多様なニーズに応える制度である。この制度は、場合によっては学生の科目選択が安易に流れる傾向を生むが、この傾向をどこまで抑制し、自由な科目選択の中で学生に力をつけさせるか、情報・ネットワーク学科の今後に期待したい。

評価領域 教育の実施体制

- ・ 情報・ネットワーク学科を設置は情報関係の施設として、6つのコンピュータ室を設置している。各教室のコンピュータは高速ネットワークで学内サーバに常時接続されており、また装備のソフトも豊富である。
- ・ 児童教育学科（静岡校舎）では、「保育実習室」を整備しており、学生が生きた保育の知識・技能を学べる場を提供している。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

- ・ 静岡校舎の4つの学科は、いずれも単位認定の状況、授業に対する学生の満足度の状況、退学・休学・留年等の状況、資格取得の状況は良好であり、また全体の就職状況ならびに専門職への就職状況がきわめて良好であることから、それぞれの学科の教育目標はほぼ達成されている。
- ・ 児童教育学科では、学外実習の前に「実習審査会」を行い、実習に必要な科目の単位（ピアノの実技等）の習得状況が一定のレベルにあることを求めている。
- ・ 児童教育学科では、2年間という時間の限られた中でやや過密なカリキュラムながら、1資格2免許を取得する学生の比率も高く、意欲的な学生の確保と効果的な学習支援の結果、力のある保育者・教員養成が実現されている。

評価領域 研究

- ・ 短期大学の付属機関として、高輪校舎では情報通信技術研究所、静岡校舎では生活科学研究所を設置し、それぞれ所報を発行する等研究活動をサポートすることにより、研究活動の活発化を図っている。

（２）向上・充実のための課題

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- ・ 自己点検・評価報告書では、教育目的・教育目標についての点検の方法や仕組みについて記述されておらず、今後の改善を期待したい。

評価領域 教育の内容

- ・ 情報・ネットワーク学科の「総合実習」の履修人員 121 名（平成 16 年度）は、学習のまとめという位置づけだけに少ないように思われる。

評価領域 教育の実施体制

- ・ 高輪校舎の図書館の改善・充実が望まれる。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

- ・ 情報・ネットワーク学科においては、教育目標の達成度について改善の余地が認められる。授業においては科目自由選択制、資格取得についてはライセンスセミナー、就職についてはキャリア・インフォメーションオフィスへの再編等の努力がなされているが、今後の改善に期待したい。

評価領域 管理運営

- ・ 今まで財務監査に限定されてきた監事の業務に、業務監査も加わったこともあり、学校法人の規模に応じた改善が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし